

関西大学

東西学術研究所紀要

55

論説

日本における『家礼』式儒墓について

— 東アジア文化交渉の視点から (三) …………… 吾妻重二 (3)

仏師「富小路友学」再攷 …………… 長谷洋一 (37)

天平十三年の書持と家持との贈答について (二)

— 17・三九一二番歌について — …………… 村田右富実 (55)

研究ノート

樋口節夫が語る「朝鮮研究」の先達者と業績

— 解放前と解放後 — …………… 野間晴雄 (69)

論説

近代翻訳史における巖復の「信達雅」 …………… 沈国威 (3)

近代文学にみる「山紫水明」の風景 …………… 林倫子 (43)

Hitomaro's Poems on the Decayed Capital

A narratological approach to *Man'yōshū* poems 1: 29 to 31

…………… ローベルト F. ヴェットカンブ (63)

天命反転住宅の二重扉

— 天命反転する身体 — …………… 小室弘毅 (91)

ブルーノ・タウトと色彩 …………… 蜷川順子 (113)

予感する身体

— 治療文化論的考察 — …………… 岡村心平 (147)

羅振玉と内藤湖南の書学交流

— 碑学研究と王羲之研究を例として — …………… 石永峰 (187)

資料紹介

火野葦平『新中国旅日記Ⅱ』翻刻、紹介【一】 …………… 増田周子 (213)

翻訳

陳寅恪『唐代政治史述論稿』

「上篇 統治階級之氏族及其升降」訳注稿 (2) …………… 陳寅恪著／森部豊訳 (245)

研究ノート

文瀾閣本『三朝北盟会編』初探 …………… 毛利英介 (269)

文化交渉視野下近代來華西人所編《漢字表》研究

— 以來會理《常用字表》、孟克明《漢字表》為中心 — …………… 鄒王番 (285)

東方文化聯盟中印度成員の活動

— 以鮑斯和薩海為中心 — …………… 劉重越 (301)

二〇二二年七月

関西大学東西学術研究所

東西學術研究所紀要

第五十五輯

(二〇二三年七月)

關西大學東西學術研究所

BULLETIN OF THE INSTITUTE OF ORIENTAL
AND
OCCIDENTAL STUDIES, KANSAI UNIVERSITY

No. 55

JULY 2022

CONTENTS

Articles

Jia-li Style Confucian Tombs in Japan:

A Study from the Perspective of Cultural Interaction in East Asia, Part 3
..... AZUMA Juji (3)

A Study of The Kyoto Buddhist statue maker “Yugaku” HASE Youichi (37)

The Correspondence Between “大伴書持” and “大伴家持” in 741 (2)
..... MURATA Migifumi (55)

Study Note

Japanese Pioneers of Geographical Studies on Korea Before
and After Colonial Period Narrated by HIGUCHI Setsuo NOMA Haruo (69)

Articles

YAN Fu’s “*xin, da, ya*” in Modern Translation History SHEN Guowei (3)

Landscape of “Sanshi-suimei” in modern Japanese literature HAYASHI Michiko (43)

Hitomaro’s Poems on the Decayed Capital

A narratological approach to *Man’yōshū* poems 1: 29 to 31 ... WITTKAMP, Robert F. (63)

The double-entry doors of the Reversible Destiny Lofts Mitaka

— The body that reverses the destiny of mortality — KOMURO Hiroki (91)

Bruno Taut and Colors NINAGAWA Junko (113)

The Body that Forefeels Future:

from Perspective on Therapeutic Subculture OKAMURA Shimpei (147)

Luo Zhenyu and Naitō Konan’s Exchange of Opinions on the Study of Calligraphy Study:

Their Perspectives on Stele and Wang Xizhi Studies SHI Yongfeng (187)

Communication

Material introduction: Ashihei Hino

“a new Chinese travel diary, II” reprint and introduction [one]
..... MASUDA Chikako (213)

Translation

Chen Yinque, *Tangdai Zhengzhishi shulungao*, Chapter 1; Part 2

..... Translated by MORIBE Yutaka (245)

Study Notes

A Brief Study on Sanchao-beimeng-huibian of Wenlange Siku-quanshu Edition

..... MORI Eisuke (269)

A study on the Lists of Chinese Characters Compiled by Westerners who Came to

China during Modern Times from the Perspective of Cultural Interaction:

Focusing on Lyon’s List and Moncrieff’s List ZOU Wangfan (285)

Activities of Indian Members in the Oriental Culture League

— Focus on Rash Behari Bose and Anand Mohan Sahay — LIU Chongyue (301)

EDITED BY
THE INSTITUTE OF ORIENTAL AND
OCCIDENTAL STUDIES
KANSAI UNIVERSITY, OSAKA

編集後記

今回の紀要から七月発行となり、編集のスケジュールが大幅に変更されたこととなった。にもかかわらず、論説十、研究ノート四、資料紹介・翻訳各一の都合十六の研究成果を無事に公開できたことを心から喜びたい。いつもながら、執筆してくださった諸氏、査読に時間を割いてくださった先生方に心より御礼申し上げます。とりわけ査読依頼の期間が従来から変わって一月下旬～二月初めになったことで、学期末の試験他多忙な時期と重なり更なるご負担をおかけすることになったのではないかと危惧する。この紙面をお借りして再度お詫びと御礼を申し上げます。

本紀要のレフェリー制度については、かなり有効に機能していることを強調しておきたい。今回残念にも採択不可となったものにも見るべきものがあり、次回に向けてより精査することを求めるコメントは投稿者にとり大いに益するところがあったはずである。紀要の質を維持するという面だけではなく、後生の育成という面においても大きな意味を持つだろう。

さて、本年度は依然としてコロナ禍の影響下にあり研究活動も相変わらず制限されることとなった。その中で着々と研究活動を続けてきている各研究班の成果の一端を本誌で確認できることは言わずもがな大変有難いことである。八研究班から一～三編の成果が公表されたことが何れにおいても活きた研究活動が進行していることを物語っている。

ウクライナ情勢を通じて戦争がますます身近になった現在、死に直面する実感を得る機会が日常となつている現在、様々な事件の報道を通じて非日常が日常に近づく足音を聞きながら、何ができるか、何をすべきか、時にどうしようもない虚無感を感じるこの頃、平常心で研究を続けることの意味が益々大きくなつているように感じる。同時に陶淵明の名句「及時當勉勵」を胸中繰り返し返しチャンスを見逃さず大いに人生を謳歌したいとも考える。同様な想いの研究諸氏もおられるだろう、ともに今後の紀要の発展を願ってやまない。

雑感をさらに付け加えるならば、紀要の電子化が進み掲載される

すべての成果がweb上で公開されることとなつている。非常にありがたいことである。本紀要に限らず様々なデータの電子公開は研究上有益であり研究が数段進んできていることも明白である。コロナ禍がその加速する要因となったことはプラスの副産物であるともいえる。ただ、これに伴い今後は紙媒体の公開が減少していくだろうかと想像すると少し恐ろしい気がする。木や竹や絹などの時代から紙へと移行した後の歴史があまりに長く、今後の記録媒体の移行についていけるであろうか、いずれ紀要も紙の実態を失っていくことになるだろうか。おそらく近い将来に実現されるであろうが、現在は想像がつかない。が、出版編集過程も大きく変わることになるだろう。

最後になりましたが、いつもながら大変な編集作業の実務を担ってくださった事務局のスタッフに心より御礼申し上げます。

(Y・G)

二〇二三年七月一日発行

発行 © 関西大学東西学術研究所

所長 吾妻重二

〒五六四一八六八〇

大阪府吹田市山手町三丁目三番三五号

電話〇六一六三六八一―一七九番
FAX〇六一六三三九一七七二番

編集者 関西大学東西学術研究所

編集委員長 玄 幸子

編集委員 二階堂善弘 池尻 陽子

長谷 洋一 岡 絵理子

村田右富実 和田 葉子

小室 弘毅

印刷者

協和印刷株式会社